



《釈文》

向ニ 東口一 可レ 及ニ 一動一 候、定置
着到之人衆、一騎一人無ニ
不足一様、可レ 致ニ 用意一 候、二月廿日を
傍示ニ、支度出来候様、可ニ
相稼一 候、仍如レ 件、

正月廿八日（虎朱印）

松井田衆中

《読み下し文》

東口に向かい一動に及ぶべく候、定め置く着到（ちゃくとう）の
人衆（じんしゆう）、一騎一人不足無きよう、用意致すべく候、二
月二十日を傍示（ぼうじ）に支度出来候よう、相稼ぐべく候、仍
つて件の如し、

正月廿八日（虎朱印）

松井田衆中

《用語》

【松井田衆・まついだしゅう】現安中市松井田町周辺にいた地侍の集団。

【東口・ひがしごち】上野国の東側。この場合、上野・下野国境付近で北条氏と戦闘を繰り広げた、佐竹氏を中心とする反北条勢力を指す。

【着到・ちやくとう】中世、出陣の時、馳せ参じた武将に対しても主家の側から武将とその手勢が負担すべき人数・武具などを明細に記して渡す書付。

【傍示（榜示）・ほうじ、ぼうじ】①領地・領田などの境界を示すために、杭・石・札などを立てること。また、その立てるものを書き付けて示す札。目印として書き記した札。立札。

【稼・かせぐ】①一所懸命働く。②力を尽くす。心をくだく。

【北条氏直・ほうじょううじなお】一五六二～一五九一年。北条氏政の長男。母は武田晴信娘、妻は徳川家康娘督姫。天正五年（一五七三）秋の上総出陣で初陣を遂げる。同八年八月氏政から家督を譲られる。同一〇年六月、信長死去により織田氏と対立し、織田氏宿老滝川一益を破り、そのまま追撃して上野・信濃に進軍する。同八月、信濃国衆の帰属をめぐり徳川家康と対立し、甲斐で対陣するが、一〇月に和睦し同盟を結ぶ。同一二年四月から七月にかけては、家康と対立する秀

吉と結んだ、佐竹氏勢力と下野藤岡・沼尻（栃木県栃木市、旧藤岡町）で対陣する。しかし、同一四年一〇月、家康が秀吉に服属し、家康を通じて秀吉への服属が働きかけられるようになる。この頃から秀吉との大戦に備え、忽国防衛体制を構築していく。同一六年五月、家康の勧告に従い、秀吉に直属を表明。同一七年、秀吉による領土裁定を受け容れるが、名胡桃城奪取事件により、同一八年三月から侵攻をうける。

同七月五日秀吉に降伏、高野山に蟄居を命じられる。同一九年八月に赦免されるが、疱瘡を患い死去。三〇歳。（『戦国人名辞典』吉川弘文館）

《解説》

東上野方面に向かい、一戦を行うので、定め置いていた着到の

人衆は、一騎一人も不足のないよう用意しなければならない、二月二〇日を日限に支度が出来るよう尽力するよう、北条家が松井田衆に命じた文書である。年号は書かれていないが、同様な内容の文書で松井田衆が足利へ出陣したことが確認できる。

青野家文書は、松井田宿上町本陣を務めた松本家に伝來した文書で、青野氏の母親が松本家出身であった関係で、青野氏に伝來し当館へ寄贈された。戦国期の「武田家定書」「北条家朱印状」と江戸期の「松本家系図」の三点からなる。